

1. また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源であるある方がこう言われる。(3:14)
 - a. この手紙はラオデキヤの教会の御使いに宛てて書かれたものである。御使いとは文脈によって人間の使者であったり神の使者であったりする。私個人の見解では、神がいくつかの可能性を語る時、それはそうする必要があるのである。この場合、この手紙はラオデキヤの会衆に向けて人間の使者が読むように書かれたが、どの教会にも霊的な動きがあり、神の御使いが遣わされ働いていることを忘れてはならない。
 - b. この手紙は数千年前に特定の教会宛に特定の問題について書かれたものであるが、現代生きる私たちには関係ない、ということではない。これらの諸教会宛の手紙は「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい」と書かれているように、すべての者に宛てられて書かれている。
 - c. これらは、特定の教会に特定のメッセージを伝えるためにこのような特別な称号を与ったイエスご自身のことばである。神が私たちのもとへ来られる時、どのような形でご自身を現しておられるかを認識しなければならない。ある時は子羊か獅子、羊飼いかさばき主、またある時は医者か友、私たちに何を伝えたいかによって変わってくる。

2. 「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。このように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。(3:15-17)
 - a. ラオデキヤ教会は経済的に富み、物質的にも満たされ、生活は安定していた。が、残念なことに彼らを満たしていたものはこの世のもので、神によってではなかった。より裕福になり、繁栄し、満足すればするほど神への信仰は失われていった。
 - b. 「真実な証人」であるイエスは、教会の状態について好ましくない証言をされる。あなたは経済的に成長し、物質的に繁栄し（良い車、大きな会堂など）、乏しいものは何もない、という教会を想像できるだろうか？ほとんどの人はそのような教会は神に祝福され喜ばれている教会だと思うだろう。ところがこの場合はそうではなかった。イエスはこの教会にうんざりされていたのである。
 - c. ラオデキヤの町では温泉か山の冷たい水を引いていた。しかし長い距離を移動しなければならなかったので町に達する頃には水は熱くも冷たくもなく生ぬるくなっていた。イエスは、彼らの行ないは冷たく（新鮮）もなければ熱く（和らぐ）もなく、吐き出す以外の何の役にも立たないので、彼らが変わらなければイエスが吐き出されるとおっしゃった。

3. わたしは あなたに忠告する。豊かな者となるために、火で精錬された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥を現わさないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるため、目に塗る目薬を買いなさい。(3:18)
 - a. イエスは本当の意味で裕福になり、恥から解放され、正しく見る目がほしければ、代価を支払わなければならないとおっしゃっている。イエスは、これらのものは店からではなくイエスご自身から買わなくてはならないと忠告される。
 - b. これらのものは教会から買うことができるものでもない。私たちがへりくだりイエスの御前に出ることである。そしてその過程でイエスは私たちに、すべてを貧しい人に差し出してついて来るよう命じるかもしれない。あるいは何か他のものを求められるかもしれない。肝心なのは神の御前にへりくだるということである。

4. わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。見よ。わたしは、戸の外に立ってたたき。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」』(3:19-22)
 - a. イエスのさばきは憎しみによるのではなく愛による。イエスは愛する者を叱責される。
 - b. イエスは私たちを招いておられる。イエスは私たちの人生の中にお入りになり、この世が与えるどんなものよりもはるかにすばらしい可能性を開いてくださる ---- もしも、私たちが彼の声に応じてドアを開けるなら。